

丹波篠山の黒大豆栽培

～ムラが支える優良種子と家族農業～

vol.02

丹波篠山は黒大豆栽培に適した土地だったのか

～丹波篠山の地形と気象からみる～

丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

日本農業遺産認定

丹波篠山地域は、盆地地形で内陸性気候のため、雨が少なくありません。さらに、盆地周りの山々は低く、雨水を集めることができる面積が限られているので、川の水も少なく、昔から用水不足に悩まされてきました。

篠山藩は江戸時代初期に多くのため池をつくりましたが、それでも水不足が全域で解消されるには至りませんでした。昭和初期ごろには、春先の代掻きや田植えに備えて、冬のうちに田んぼに水を貯える冬期湛水をする田んぼが158ha（市全体の10.4%）もあったそうです（※1）。

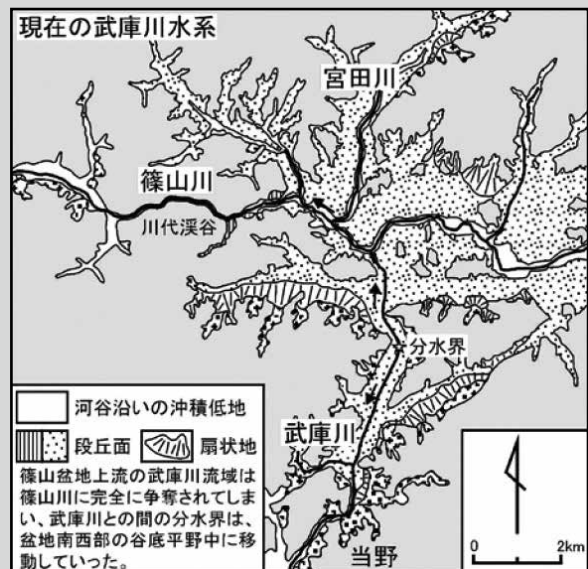
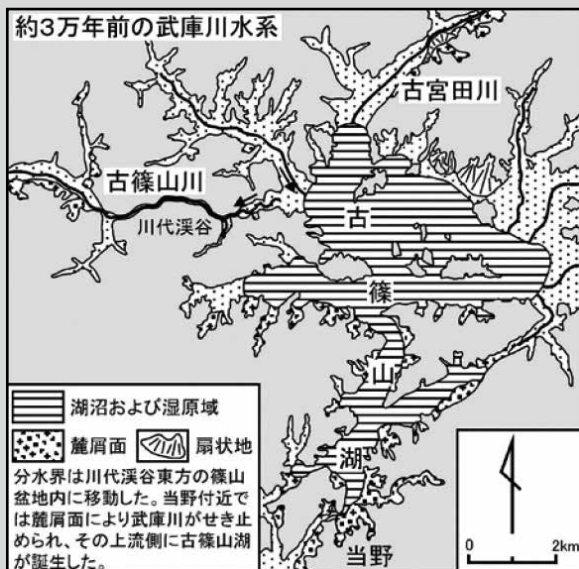
地形からみると、約1～3万年前、篠山盆地は「古篠山湖」だったと考えられています（※2）。丹波篠山の平地部分は湖の底であり、土壌は土地生産力が高いものの、粘土質で水はけの悪いものでした。

丹波篠山地域は、最初から黒大豆栽培に恵まれた土地ではなく、水不足や水はけの悪さを先人たちの努力によって克服し、ようやく豊かな農産物が採れる地域になったのです。

【参考文献】

（※1）後藤定年ら（1955）丹波篠山盆地における湿田改良対策研究1、兵庫農科大学研究報告。農学編2（1）：p.101-106

（※2）加藤茂弘（2006）武庫川のふしぎな地形と地質、武庫川散歩（人と自然特別号2）：p.37-51



加藤茂弘(2006)から引用